



「2020市民対話集会」報告

札幌市医師会理事・政策部長 多米 淳

2020年1月25日(土曜日)、13時30分より「2020市民対話集会」が札幌市医師会館5階大ホールで行われました。今年のテーマは「増え続ける国民医療費～患者自己負担増と保険外し～」。

今回は若い年齢層の市民にも関心をもっていただきたいので、ゲストを上杉周大さん、司会進行を石井雅子さんをお願いしました。上杉周大さんは、札幌出身のミュージシャンで2007年から始まったSTV「ブギウギ専務」のメインパーソナリティーとしても人気があり、北海道日本ハムファイターズの公式球団歌「ファイターズ賛歌」の歌唱を担当しています。石井雅子さんは、通称「石井ちゃん」の愛称で親しまれていて、レポーターとしてテレビやイベントで活躍されています。

当日の入場者は136名で家族連れや若者の姿もちらほら見受けられ、若年層を含む広い世代にアピールできたと感じております。

開催にあたり鈴木副会長から、この対話集会が市民の皆様にとって有意義なものであるようにと丁寧なご挨拶をいたしました。

定刻になり、いよいよ開会です。開会后20分は、上杉さん&石井さんによるフリートークをお願いしました。自身の体調や病気、けがの体験をユーモアいっぱい話され、75歳以上に自己負担増が検討されている事やOTC薬剤、増え続ける医療費の推移や現況に関して、会場の皆さんに分かりやすく話しをされ、会場の雰囲気をもたせいただきました。

続いてパネルディスカッションに入り、最初は私から「国民皆保険制度ってなんですか？」をテーマに、パワーポイントを使用して説明いたしました。国民皆保険制度の概要、特徴、素晴らしさをお話ししました。保険証の重要性、自己負担割合、公的医療保険の種類と対象者・負担率、公的医療保険の仕組み(医療費の流れ)、日本の医療の世界的評価に

ついても具体例をあげて、お伝えしました。また、かかりつけ医を持つ重要性、健康寿命の延伸・救急車の適正利用・コンビニ受診の自重が医療費の増大を防ぐこともお話ししました。上杉さんから「かかりつけ医」に関する質問があり、診療科に関係なく何でも相談できる相性の良い「かかりつけ医」を持つことは大事なことで、適切なアドバイスを受けることができ、必要があれば最適な医療機関を紹介してくれることもお答えしました。さらに「救急車を呼ぶか迷ったときの対応」を聞かれましたので、#7119救急安心センターには、訓練された看護師が24時間、365日対応しており、しっかりとした対応をしてくれることも説明いたしました。

次に政策担当・百石理事から「国民医療費」について、お話しいたしました。国民医療費に関して、国民医療費・対国内総生産・対国民所得比率の年次推移、診療種別国民医療費構成割合、平成29年度国民医療費の構造、年齢階級別国民医療費、性別にみた傷病分類別医科診療医療費構成割合、日本の人口ピラミッドを示し丁寧に説明しました。いずれの図・表も、一般の方には馴染みの薄い、理解しづらい内容でしたが、かみ砕いて分かりやすく説明し、会場ではメモを熱心にとる姿も見られました。上杉さんから「医療費を増大させないためには、何をすればよいか？」という質問が出ました。百石理事からは、健康寿命を延ばすことが医療費増大を食い止める方法だという事を自身のダイエットの経験、運動継続の重要性、バランスの良い食生活の重要性、禁煙の勧めなど、具体例をあげてお答えしました。

最後に政策担当・上埜理事から、「患者負担増・保険外し」のテーマでお話しいたしました。増大する医療費を誰が負担するのか？という身近ではありますが、難しいテーマを取り上げました。現在、全世代型社会保障検討会議で議論されている75歳以上の窓口負担の引き上げ問題(1割→2割)、OTC医薬品に関する保険外しの問題提起、セルフメディケーション推進の危うさを説明。さらに受診時定額負担の目的は患者の受診抑制であり、国民皆保険制度の根幹を揺るがすことや、制度の逆進性、歯止めなき負担増大に懸念を示しました。疾病の早期発見・早期治療が重要でフリーアクセスの制限は、市民の健康にも重大な悪影響を及ぼすこと、さらに被用者保険の保険料の格差、高額医薬品の我が国の現状にも言及しました。石井さんからの今後の窓口負担増への心配と不安の質問に対しては、現況では2022年度から負担増とのことですが、高齢化が進んだ将来には自己負担増の可能性があり、受診抑制が起きないように医師会として活動する旨、説明しております。上杉さんからはOTC医薬品に関する質問があり、使い慣れた薬であればOTC医薬品でも構わないが、症状が軽快しない場合はかかりつけ医の受診をしてくださいとお話ししました。

今回の印象としまして、年齢構成が若干若返り、幅広い年齢層に来ていただけたと思いました。ゲストの上杉さん、司会の石井さんのトークや雰囲気も親しみやすく、和やかな中での対話集会になったと感じます。パネルディスカッションも熱心に聞いていただけたようです。今後も多くの市民の方々に参加していただけるよう、医療の身近な問題をテーマにし、開催していきたいと思っております。



北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

1. 原稿の締切
毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。
できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。
2. 原稿の体裁と字数制限
 - (1) 原則として横書きといたします。
 - (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
 - (3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。
 - (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁、「会員のひろば」は1頁を限度とします。
医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。
 - (5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。
3. 原稿の訂正、返却
次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。
 - (1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容
 - (2) 匿名の投稿
 - (3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）
ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない
 - (4) その他掲載に支障がある内容
4. ホームページへの掲載
特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090
E-mail : ihou@m.doui.jp